

## 第2学年 英語科学習指導案

日時 平成16年 6月29日(火) 5校時  
生徒 2年A組 男子17名 女子17名 計34名  
指導者 教諭 吉田 真美(基礎コース)  
金野 直(基礎・応用コース)

### 1 単元名 New Horizon English Course Unit 2 Yumi goes abroad

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

この単元の話題はゴールデンウィーク中の由美の中国旅行であり、世界遺産の一つに指定されている「樂山大仏」を訪れてその姿(様子)をビデオに収めながらナレーションをし、更に彼女が調べた樂山大仏建造の由来を説明したものとなっている。Starting Out では予定を説明するために be going to ~ の構文を扱っている。またこの中国旅行を通して入国審査での応答や私達の身近な国、中国の遺産を姿だけでなく、その建造の由来についても興味をもって知ることができる内容となっている。旅行の場面を通して、SVOO や SVOC 文型に触れ、意味や語順を間違わずに使うことができるよう、指導の工夫が必要である。

##### (2) 生徒観

全体的に男子が明るく、女子は控えめな生徒が多いクラスである。活発に挙手をする生徒も多いが、中にはよく考えずに挙手し指名後にとまどってしまうこともある。これは宿題や家庭学習になかなか取り組めない生徒に見られがちである。

音読練習には多くの生徒が意欲的に取り組むことができる。またウォームアップでの英問英答には生徒間の手助けもあり、あきらめずに取り組むことができる生徒が多い。しかし「書く」場面では聞いて書いたりすることや口頭練習したことを実際に書いたりすることが不慣れで間違ってしまうことが多いように思われる。

##### (3) 指導観

未来形 be going to は2年生にとっては新しい時制である。現在と過去の区別、主語と動詞の関係( be 動詞と一般動詞の使い分けを含む)も理解しにくい生徒に視覚的なヒントや口頭練習、単語や文型テストを継続しながら取り入れていくことで少しでも理解につながるように支援していきたい。また同様に SVOO や SVOC 文型も身近に使えるものを話題として提供し、使いながら誰もが表現できることを実感させたい。

##### (4) 家庭学習との連携

宿題として本文の視写や新出語句の意味調べを継続させている。また毎時間授業終了後にその日のポイント(ゴール)を教科リーダーが確認し、掲示、帰りの会で家庭学習ノートに記入させることをしている。それを参考にその日の学習内容をはじめ、重要単語や連語、授業で使われたプリントなどの復習をする生徒が多くなってきている。

#### 3 単元の目標

##### (1) 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・初歩的な英語を用いて、自分のことを表現したり、相手からの情報を得たりする活動に積極的に取り組もうとする態度を養う。

(2)【表現の能力】

- ・ be going to や S V O O、S V O C の文を用いて、相手に質問したり、それに対して適切に応答したり自己表現したりすることができる。

(3)【理解の能力】

- ・ be going to や S V O O、S V O C の文を用いて伝えられた情報・内容・質問を正しく理解する。

(4)【言語や文化についての知識・理解】

- ・ be going to とそれに続く語句の意味・用法を理解している。
- ・ S V O O、S V O C の文の構造を理解している。

4 単元・題材の指導計画と評価規準

単元名	時間	指導目標	評価規準			
			コミュニケーションに対する関心・意欲・態度	「話す」「書く」表現力	「聞く」「読む」理解力	言語や文化に対する知識・理解
Unit 2 Yumi Goes Abroad	第1時 T-T	be going to の文型・意味・用法を理解し表現できる。		be going to の文型を用い適切に質問したりそれに答えることができる。		be going to の文型が理解できる。
	第2時 T-T	・ S V O O の文型・意味・用法を理解し表現できる。 ・ 対話文の内容が理解できる。		入国審査を想定した対話に対して適切に応答することができる。		S V O O の文型が理解できる。
	第3時 少人数	ナレーションを読み、内容を理解し、それを参考にして簡単なナレーションができる。		S V O C の文型を用い、聞き手に正しく伝えることができる。		S V O C の文型が理解できる。
	第4時 少人数	樂山大仏の由来の説明を読み、内容を理解し、またそれを参考にして物の由来を説明できる。	本文の音読や基本練習に積極的に取り組んでいる。			日時、由来など必要な情報を正しくよみとることができる。
Listening Plus 2	第5時	飛行機の搭乗案内や機内放送を聞き、具体的な内容や大切な情報を聞き取ることができる。			飛行機の搭乗案内や機内放送の要点を正しく聞き分けることができる。	便名、ゲート、飛行時間、気温などの数字を聞き取ることができる。
Speaking Plus 1	第6時	目上の人に対して、丁寧に許可を求めたり、依頼することができる。	話し相手に対して、うなづいたりして積極的に関心を示しながら対話をしようとする。		相手が許可・依頼を受け入れているのかがどうか正しく理解できる。	
まとめ	第7時 少人数 (本時)	個々の定着に応じた単元のまとめができる。	既習事項を用い、積極的に活動やパタンブラクティスをしようとする。	既習事項を用いて文を作ることができる。 既習事項を用いて対話することができる	作った英文の内容を理解できる。	既習事項の文型が理解できる。

## 5 - 1 本時の指導（基礎コース）

### (1) 目標

- ・ Be 動詞を正しく選択し、未来について表現することができる。(知識・理解、表現)
- ・ グループ活動や個々の活動に意欲的に参加することができる。(関心、意欲、態度)

### (2) 評価と具体の評価規準

具体的評価規準 評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手だて
コミュニケーションへの関心、意欲、態度	自ら意欲的に活動に取り組むことができる	活動に取り組むことができる	机間巡視により励ましながら、教師や友達の援助を受けることで自信を持たせたい
言語や文化の知識、理解	Be going to を間違えずに選択し、未来の文を完成することができる	Be 動詞を間違えずに選択することができる	グループ分け(活動)による指導 机間巡視による個やグループへの指導
表現	Be going to の文型を使って正確に文を書くことができる	Be going to の文型を使って文を書くことができる	時間的配慮 個やグループへの指導とグループ間の援助

### (3) 展開 個に応じた指導 評価

段階	学習内容及び学習活動	支援、評価、留意事項、 教具等
導入 8分	1 Small Talk ・ 挨拶や曜日、日付、天気など ・ 既習文型や単語の復習  Goal:未来形をマスターし直そう	ヒントを与え、それを基に答えようと努力させる
展 開	2 未来形の意味、文型、よく使われる表現の確認 3 2の確認をもとに未来形を使った文をみんなで一文作成  4 センテンスビルディングゲーム 小グループに分け、未来形の文を協力して作成  5 内容確認 各グループでできた英文の意味をそれぞれが正しく理解し、みんなで口頭練習により確認	主語により be 動詞が変わることを気をつけさせる  be 動詞を間違えなく選択し、文を作っているか (知識・理解) グループ活動に意欲的に参加しているか (関心・意欲・態度) 評価に応じた個別指導

	学習内容 及び 学習活動	支援、評価、留意事項、 教具等
展 開 3 7 分	6 未来形の疑問文練習 ( Read and Run ) ペアを組み、指定された人物が「明日何をする予定か」絵を見て相手に伝える Q: What is S going to do tomorrow? A: S is going to --- tomorrow.	実演を基にやり方について理解できるようにする
終 末 5 分	7 まとめ 実際にこれからのことを一文書いてみる  8 次時の予告と今日のゴール確認	自分の予定を今回の文型を使って書こうとしているか(表現) 今日の取り組み姿勢の全体評価、及びプリントによる個々の評価をさせて提出

### 5 - 2 本時の指導 (基礎・応用コース)

#### (1) 目標

- ・ 既習文型 ( Be going to ~ ) を理解し、自分の考えや気持ちを表現することができる ( 表現、理解 )
- ・ 疑問詞の入った未来形を用い、応答することができる ( 表現、理解 )

#### (2) 評価

判断基準 評価の観点	A : 十分満足できる	B : おおむね満足できる	C : 努力を要する生徒への手だて
関心、意欲、態度	自ら意欲的に活動に取り組むことができる	活動に取り組むことができる	机間巡視により励ましながら、教師や友達の援助を受けることで自信を持たせたい
表現、理解	Be going to の文型を理解し、表現できる	Be going to の文型を理解できる	グループ分け(活動)による指導 机間巡視による個やグループへの指導
知識、理解	Be going to の文型を使って正確に文を書くことができる	Be going to の文型を使って文を書くことができる	時間的配慮 個やグループへの指導とグループ間の援助

#### (3) 展開 個に応じた指導 評価

段階	学習内容 及び 学習活動	支援、評価、留意事項、 教具等

<p>導入 10分</p>	<p>Small Talk ・ 挨拶や曜日、日付、天気など</p> <p>Quiz ・ 前時の『学習のポイント』も含めた、既習の文型・単語の小テスト</p>	<p>意欲的に参加しようとしているか つまずきのある場合はヒントを与え、努力させる</p>
<p>段階</p>	<p>Goal: 疑問詞の入った未来形の文を使い、応答しよう</p>	<p>支援、評価、留意事項、 教具等</p>
<p>展開 30分</p>	<p>未来形の文型確認</p> <p>未来形の疑問文練習 ( Read and Run ) Q: What are you going to do after school? A: I'm going to --- after school .</p> <p>で聞いた友達の文をノートに書く。</p> <p>パタンブラクティス 5W1Hの入った未来形の文を教師の後について 口答練習する インタビューゲーム 5W1Hを使い、マッチするペアを探す</p> <p>内容確認</p>	<p>教師の発問に対して意欲的に答えようとしているか 文型を理解し、相手に自分の考えを正しく伝えようとしているか</p> <p>be 動詞を正しく用い、文を作っているか 英文の意味を正しく理解し、練習しているか</p> <p>意欲的に活動に参加し、問題を解決しようとして努力しているか ヒントを与え、それをもとに答えようとして努力させる</p>
<p>終末 10分</p>	<p>まとめ ・ ワークシートの問題に答える。( 評価 ) 評価に応じた家庭学習のモデルを指示する。 ・ 今日の学習内容の確認と次時の予告</p>	<p>今日の取り組み姿勢の全体評価、及びプリントによる個々の評価をさせて提出</p>